

北川の魚信

2013 年 4 月 28 日

vol. 98

外来生物
特集号

発行 北川かっぱの会

<http://homepage3.nifty.com/kitagawakappanokai/>
<http://kitagawakappanokai.cocolog-nifty.com/blog/>

アカミミガメ駆除作戦がはじまります



北川のたくさんの小魚類を解説

報告 春のうららかウォークをガイド！

3/23 狭山公園パークセンター(西武・狭山丘陵パートナーズ)主催の春のうららかウォーキングに北山公園のガイド役として協力しました。当日は天気も良く、桜も五分咲きで絶好のウォーキング日和。9 時頃より多くのウォーカーが訪れはじめ、11 時頃まで断続的に来園者がありました。北川かっぱの会では、9:20 から 10:20 まで約 20 分ごとにガイドツアーをスタートし、合計 120 名程度に北山公園や北川の自然ガイドを行いました。しょうちゃん池(魚や鳥、外来生物)、魚道(魚道の意義、遡上する魚)、親水広場(自然護岸の意義、北川の魚、外来生物、水質、ゴミ)、菖蒲田木道(八国山の景観、花菖蒲、祭り)などのポイントを中心に話し、参加者にはかっぱの会発行の「八国山・北山公園の生物観察ガイド」を配布しました。また、当日採集したオイカワ、ゲンブナなどや特定外来生物のオオフサモを水槽で展示し、多くの方に興味

を持っていただけましたようでした。今年も北川かっぱの会が北山公園内の自然解説という大役を引き受けることになりましたが、会のメンバーそれぞれがとてもよい経験をすることができました。今回のガイドを聞いた方たちが、再び北川に興味を持って遊びに来ていただけたらうれしいです。(久)

報告 宅部池に流れ込む細流の生き物を調べました 生き物講座番外編一



「これっ 何??」 生き物探し

狭山公園内にある宅部池（通称たっちゃん池）には、湧水による水源がいくつかあります。このうちのひとつが、池の南西側の林間に、短いですが池に向かって細流をつくっています。公園内には他に同じような場所がないこともあって、「一緒に生き物を調べてみませんか?」と、公園を管理しているパークセンターの方からお誘いを受けました。宅部池は北川の最も大きな水源となっていますし、その池の水源の生き物調べですから、興味津々、嬉しいお誘いでした。狭い範囲であり、初めての試みであったため、今回は広く参加者を募集することはせず、3月24日の午前中にパークセンターの方6人とかっぱの会の4人で流れの下の泥や落ち葉の中に潜む生き物を探しました。

調べた結果、個体数は僅かでしたがオニヤンマのヤゴやセンブリの幼虫（お腹用の苦い葉になる植物ではありませんよ!）など、林間や山裾、湧水などの細流を好んで生息するものに加え、ホタルの幼虫もみつけました。

生き物の生息場所は、種によって広範囲～局所的であり、環境条件と密接な係わりがあります。一般的に、広範囲に生息するものはいろいろな環境への適応力が強く、局所的に生息するものは、「要求する特有の生息条件」の有無で分布域が制限されている場合が多いのです。判り易い例では、ある蝶の分布域が特定の食草の分布域に制限される、ゲンジボタルの幼虫はカワニナがいる場所でなければ生きられない、タ



ホタル幼虫(2mm強)

オニヤンマ ヤゴの顔



ナゴの繁殖場には2枚貝の生息が必要など…。(注：局所的な分布は、他に「棲み分け」や環境の連続性が断たれた場合などでもみられます)

今回調べた場所は希少な林間の細流という地形的な要因から、予めオニヤンマ ヤゴの生息が予想されましたが、まさに「しかるべきところには、しかるべきものがある」ことを実感しました。やはり、ヒトを除く生き物の多様性が担保されるためには、環境の多様性が不可欠ですね。(チシマザクラ)

かっぱの楽校 生き物講座 68 マルタウグイ

今年も、3月の半ば過ぎに、我々の住む東村山市を流れる北川の下流部にあたる柳瀬川にマルタウグイの群れが無数に遡上してきました。この季節に毎年産卵のために東京湾から川をさかのぼって来ています。このマルタウグイは、一般にハヤと呼ばれるウグイの近縁種でコイ科の魚ですが、その魚体はウグイよりもはるかに大きく、50cm以上にもなります。その大きな魚が数百匹単位の群れをなし、浅瀬で水飛沫を上げながら産卵する様子は壮観です。今年もビデオカメラを回しながら随分と長い時間見とれてしまいました。

マルタの寿命は10年ほどで比較的長生きです。産卵が終わってもまた元気に海に帰っていきます。ここ数年、僕にとって柳瀬川にマルタの群れを見つけると、本格的な春の到来を感じます。この原稿を書いている今ももう4月も半ば過ぎで、マルタの産卵も終わり、そろそろ若鮎が群れをなしてこの柳瀬川に遡上してきています。今年の夏も釣竿抱えて柳瀬川に



出かけるとしますか！近所に遊べる川が有る事は幸せですね！

(中谷)

特集 北川流域の外来生物

外来生物とは、他の地域から人為的に持ち込まれた生物のことです。移入元が国外でなくても国内の他地域であれば外来生物であり、その場合「国内外来生物」と呼ぶこともあります。外来生物は、在来の動植物を補食したり、エサや繁殖場所などの生息環境や生育場所を奪うことで生態系のバランスを崩す可能性があります。また、在来種との交雑により遺伝子を攪乱させる恐れもあります。

拡大する外来種問題に対して、日本では 2004 年に、環境省主導で「外来生物法」が公布されました。外来生物をその脅威性から分類し、特に生態系への影響が大きい種や、人の生活に大きな影響を及ぼす種を「特定外来生物」として指定し、取扱いを規制※しています。規制はないが、生態系への影響を及ぼしうるものは「要注意外来生物」に指定しています。

北川や北山公園の池では、特定外来生物として、オオクチバス（ブラックバス）やウシガエル、オオフサモ（水草）が見られ、雑木林ではガビチョウやソウシチョウが見られます。また、要注意外来生物として、ミシシippアカミミガメ（ミドリガメ）やアカボシゴマダラ、アメリカザリガニが見られます。これらの生物は放流や投棄されたものが繁殖していますが、地域本来の在来生物の中には、生息環境が奪われて絶滅の危機に追いやられている種もあると思われます。このため、今後もこれらの外来生物の駆除（防除）活動を継続的に行っていく必要があります。

※「特定外来生物」を野外に放したり、生きたままの運搬、飼育などを行うことは禁止されています。違反した場合、内容によっては非常に重い罰則が適用となります。

オオクチバス

北アメリカ原産で、「ブラックバス」といえば「オオクチバス」のことを指すことが多い。日本には 1925 年に箱根の芦ノ湖に食用魚、釣り魚として放流されたのが最初だが、1990 年代の後半頃から釣り



ブームもあって全国の池沼に密放流された。オオクチバスは魚食性が強い
ため、在来魚などを全滅させる可能性が
高い。現在、琵琶湖や伊豆沼をはじめ
全国の池沼や川でその駆除に大変な労
力を使っている状況になっている。



北川の幼魚の腹から
はトウヨシノボリが



たっちゃん池で採取したオオクチバス

北川で毎年実施している魚類調
査結果では、2005～2006年に突
然、多数のオオクチバスが見られ
るようになった。その原因を探っ
てみた結果、最上流部の狭山公園
たっちゃん池から流出したもので
あることがわかり、池の流出部に
ネットを張るなどの対応をした結
果、北川のオオクチバスは激減し
た。北川では2007年以降、時た
まオオクチバスを見る程度となっ
ているが、完全に姿を消しているわけ
ではない。2012年の春の北川クリーンアップ時には20cmクラスの姿を確認している。

北川かっぱの会では、行政や他団体、一般市民とともに、2010年3月には北山公園しょうちゃん池で、同年11月には狭山公園たっちゃん池で掻い掘り（池干し）を実施し、多数のオオクチバスを捕獲した。捕獲したオオクチバスの胃内容物に多数の在来魚やエビ類などを観察することができた。しょうちゃん池ではブラックバスを完全に駆除することができたものの、たっちゃん池ではすべての個体を駆除するには至らず、狭山公園パークセンターで人工産卵床の設置等の駆除対策を実施しているところである。今後も継続的に防除策を講じていく必要がある。



たっちゃん池でのかいぼり

オオフサモ

南アメリカ原産で、繁殖が旺盛で地下茎で繁殖する。1920年頃にドイツ人が持参し、兵庫県須磨寺の池で野生化した。美しい水草であるため、熱帯魚などと一緒に育てられているケースも多いと思われる。オオフサモが繁殖すると、川の水が妨げられ、また同様な生息環境の在来種が駆除され、結果として動物も含めた地域の生物多様性に大きなダメージを与える可能性がある。国内では、筑後川水系などで過繁殖した純群落が水流を妨げるなどの問題を引き起こし、霞ヶ浦では湖の一部や周辺の水路で大繁殖し在来種への影響が危惧されているなどの情報もある。

北川では2010年頃から大繁殖し、縄文宅部橋付近では水流を妨げるような所も見受けられるに至っている。オオフサモはちぎれた茎や葉が流れ着いた所で活着し繁殖をはじめることから、極めて繁殖力が強く、北川の水を引水している北山公園内でも繁殖を確認することができる。

北川かっぱの会では市と連携しながら、2011年より駆除活動を行っている。オオフサモは根の部分から完全に除去する必要があることから、完全駆除が難しく長期戦を覚悟する必要がある。



オオフサモの駆除作業

要注意外来生物



ミシシippアカミミガメ

北米、中米原産で河川や湖沼などに生息する。子ガメは「ミドリガメ」と呼ばれて祭の縁日などで売られているが、4～5年経つと甲長20cmを超える。これがミシシippアカミミガメ（以下、アカミミガメ）で、目の後方に鮮やかな赤色の帯があることが名前の由来になっている。

米国では大量に「ミドリガメ」を養殖し世界各国に輸出している。食性の幅が広く、魚類や両生類、甲殻類、貝類、水生昆虫の他、藻類や水草なども食べることから、在来生物に多大な影響を与えている。日本では食害により、佐賀城のお濠のハスやヒシが消失し、徳島のレンコン田では生育不良の被害が発生している。また都市部ではカルガモやカイツブリのヒナが食べられてしまう被害も発生している。

アカミミガメは実質的には特定外来生物並の影響を生態系に与えているが、特定外来生物に指定されると、遺棄が急増されると想像されることや、アカミミガメの輸入制限が不当な輸入規制として貿易紛争になる可能性があることなどから、「指定」が進まない状況であると思われる。

北川で毎年実施している魚類調査結果では、2005年以降毎年、数は少ないがアカミミガメを確認している。また北山公園「しょうちゃん池」でも2012年よりその繁殖が確認されている。もともと生息していたクサガメにも悪影響を与えていると考えられる。

北川かっぱの会では2013年より、北川流域、特に北山公園しょうちゃん池でのアカミミガメ駆除に取り組む。池にカゴアミを仕掛け駆除を行うとともに、定期的な目視調査、

市民向けの啓発活動を行う予定である。一緒に駆除作業を行うボランティアを募集中（全員が駆除初心者）です。



ウシガエル

アメリカ原産で食用となる。日本には1918年に食用として移入。ウシガエルは夜行性で昼間は水草の中や水場周辺の茂み、窪地などに隠れているが、暗くなると活動する。きわめて捕食性が強く口に入るものであればほとんどの動物を食べ、昆虫やザリガニ、小魚の他、他のカエルや小型のヘビ、小鳥などもエサとなることから、地域の生態系に大きな影響を与えていると思われる。現在では日本各地に生息している。

北川や北山公園内の池や湿地では、多くのウシガエルの卵、オタマジャクシ、成体を確認することができる。そのため、トンボ類の幼虫（ヤゴ）やトウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエル等希少なカエル類の幼生（オタマジャクシ）をはじめとする在来種が捕食され、大きな脅威となっていると推測されるが、その駆除活動は全く手がついていない状況である。北川かっぱの会では、手始めに 2013 年から始まるアカミミガメの駆除活動に併せ、カゴアミに入ったウシガエルについて駆除を行っていく予定である。

アメリカザリガニ

北米原産で食用ガエル（ウシガエル）のエサとして 1930 年に移入。当初の養殖池から逃げ出したのをきっかけに日本各地で生息するようになった。

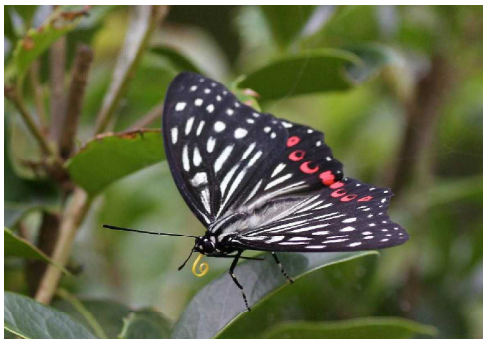


南東北地方以南でいう「ザリガニ」はすべてアメリカザリガニで、穴を開けることで水田の水漏れを起こしたり、食害として水生植物全般や水生昆虫、淡水魚などへの影響があるとされている。

北川や北山公園内の池や水路、湿地では多くのアメリカザリガニを確認することができる。多くの子どもやその保護者がザリガニ捕り（釣り）を楽しんでいるが、駆除を意識した活動は行われていない。北川かっぱの会では、手始めに 2013 年から始まるアカミミガメの駆除活動に併せ、カゴアミに入ったアメリカザリガニについては駆除対象とする予定である。

アカボシゴマダラ

中国、朝鮮半島、濟州島、台湾（奄美群島の在来亜種を除く）に生息する。1998 年に神奈川県藤沢市で確認されて以来、発生は続き、分布域は拡大している。現在定着している地域では 1997 年以前にはまったく確認されていなかったのが侵入、定着は人為的な放蝶行為によるものと考えられている。在来種のゴマダラチョウとの食草（エノキ）をめぐる競合が懸念されている。



東村市内では2008年には八国山への侵入が確認されており、急速に個体数や分布が拡大していると推測され、現在では狭山公園の雑木林などでも普通に見られる。

ソウシチョウ

東アジア、東南アジア原産で渡りはせず、主に標高1000m以上の落葉広葉樹林や竹林などの下層部や藪に生息する。日本では下層植生の発達した森林のササ群落中に営巣する。大きな声でよくさえずる。

本種が優占種になることで、群集構造が著しく変化している可能性がある。長期的には同所種や捕食される小動物等への直接間接の負の影響も推定される。

東村山では八国山や狭山公園に冬季に飛来し、群れで藪などで生活しているため、同じ生息環境を必要とする在来種のウグイスが生存を脅かされている可能性がある。



ガビチョウ

東アジア、東南アジア原産で渡りはせず定住的でヤブに営巣する。大きく、複雑な音色でよくさえずる。熱帯・温帯の下層植生発達した環境に広く生息する。

ガビチョウ類の定着が確認されている、九州・本州の低地林等の里山的森林において、これらの種が最優占種となり、群集構造が著しく変化している。また、長期的には在来種への直接・間接の負の影響も懸念される。

東村山では近年八国山や狭山公園などに定着しており、通年藪などで暮らしている。冬季はアオジなどの地上で採餌する習性を持つ鳥類を追い払う行動が確認され、シロハラ等とも競合している可能性がある。初夏にはササ藪で繁殖するウグイスと競合するなど、同様の生息環境を必要とする在来種の生存を脅かしている可能性がある。



報告 総会を開催しました

3/2 (土)、廻田公民館で総会を開催し、2012年の活動総括と決算、2013年の活動方針と予算が承認されました。(前記活動総括と活動方針は3/3日付け「かっぱブログ」、ホームページにも掲載。会員の皆様には別に決算書や予算書等をお送りしています。)

2013年の活動方針では、今年の実重要な活動として、「北川ルール」の制定、北山公園しょうちゃん池でのアカミミガメ防除やオオフサモ駆除、ボランティア募集の拡大と強化、かっぱ通信100号発行記念イベントの開催などを中心に討議が行われました。議論の主な点は、

①「北川ルール」はルールという堅いイメージではなく、「川で魚をとってもいい、遊んでもいい」という考え方をベースに「魚のためにも、楽しく遊ぶためにも川との付き合い方を考えてみよう」というようなイメ

ジで伝えた方がいいのではないか。

②「北川ルール」を周知していくにあたっては、ポスターやパンフレットの作成まで考えた方がいい。

③北山公園の整備計画について、再度、生物多様性を復元、保全していく立場から議論した方がよい。

④北山公園界隈の絶滅危惧種を守っていくためにも定期的な生物調査が必要。

⑤参加者の底辺拡大を図るために、いろいろなチャンネルでボランティア参加の呼びかけをすべき。

⑥かっぱ通信100号発行記念イベントについては、展示会、写真展、パネルディスカッション等の開催を中心に検討していくとよいのではないかと、などでした。

この1年の活動についても引き続きご支援をお願いします。



気楽にボランティアしませんか スケジュールは次頁参照

春の北川クリーンアップ

詳細は市報に掲載予定

以下のイベント作業にお手伝いくださる方募集中。かっぱの会へ直接、またはかっぱブログなどで応募ください。当日の見学も大歓迎です。

水と緑の掲示板編集作業 4/29 (土) 11:00 ~ 12:30

「北山公園・八国山見どころマップ・初夏編」の編集作業を行います
(八国山たいけんの里)

アカミミガメ駆除
定例川そうじ

北川のオオフサモ駆除
全国の川・一斉調査

— 2013年 4月～6月 活動スケジュール —

定例川そうじ 毎月第2土曜 9-11時

5/11、6/8(土) 集合：北山小正門前

北山公園しょうちゃん池の

アカミミガメ駆除 小雨決行

(カゴアミ仕掛けと回収)

5/18(土) 14:00～16:30

5/19(日) 11:30～12:00 回収予備日

6/1(土) 14:00～16:30

6/2(日) 13:00～13:30 回収予備日

春の北川クリーンアップ

5/19(日) 10:00～12:00

将陣場橋、大関橋、宅部遺跡橋、
または水道橋集合；雨天中止。長靴、手袋などを持参。

全国の川・一斉調査

6/2(日) 9:00～12:00 北川と前川の10箇所について水質調査や水底生物調査を実施；雨天決行。

廻田公民館集会室集合

北川のオオフサモ駆除

5/18(土) 15:00～16:00頃

縄文遺跡橋集合 北川で増殖している特定外来生物オオフサモの駆除 →長靴、手袋などを持参。雨天中止

東村山市みどりの祭典

4/29(祝) 10:00～15:00頃

東村山市中央公園

川端会議

5/18(土) 10:00～12:00

ふるさと歴史館 →北山公園等の整備や管理についての市、市民団体、市民による意見交換会。どなたでも参加可能です。

小学校土曜講座

北山小・ヤゴ救出作戦

5/25(土) 9～12時頃 北山小

雨天の場合は翌日に順延

富士見小+南台小

八国山昆虫採取

6/15(土) 10時頃～北山公園集合

八国山へ。雨天中止。

北山小・ホタル観察会

6/22(土) 18～20時頃 狭山公園

パークセンター集合 雨天中止

富士見小+南台小+北山小

落合川へ行こう

6/29(土) 10～16

時頃 東久留米

南沢湧水 雨天

中止



多摩湖緑地・原風景を守る会 活動日程

多摩湖町自治会集会所集合 観察&維持保全&作物植付け

5/5(第1日曜) 9:30～12:00 5/18(第3土曜) 13:00～15:00 ごろ

6月は、定例作業の他に回田小学校にて記録写真展示会の予定。

インフォメーション

会費納入のお願い

かっぱ通信の印刷費、郵送費（マスコミや環境関係の識者、他の環境団体への周知経費を含む）や夏まつりの消耗品などの経常的な経費は、皆様方からの会費を基に活動を行なっています（企業等からの助成金は、経常的な経費への支出は認められない）。

今回、振込用紙を同封させていただきましたので、最低限の活動を行なっていくためにも、会費（年間 3000 円）のお振込をお願いいたします（既に振込済の方にも振込用紙を送付している可能性があります。悪しからずご了解ください）。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

北川かっぱの会 定例会

6月2日(日) 11:30 ~ 12:30

廻田公民館集會室

夏祭り、9月頃までの活動計画について検討。誰でも参加可

DINING MOGU MOGU 紹介

会員の「シゲ」こと萩原繁郎さんが飲み屋さんを始めました。本誌持参の方は初回ドリンク1杯無料とのこと。TEL: 042-403-6553

●編集後記 アカミミガメを養殖、輸出している米国では米国内の流通は 10cm 以下は規制されているという。それが他国には輸出 OK とか。どうして？

生き物講座のナンバーがずれていました。大訂正しました。失礼しました。
(遊星歯車)



かっぱの会会員募集

狭山丘陵の東麓、トトロの故郷北山公園一帯の緑の保全とその前を流れる北川の清流復活という夢をもって作られた会です。自然と野外の遊びが大好きで、趣旨に賛同、活動に参加できる方（参加、入退会自由）を広く募集しております。

●会費 年間 3000 円

「かっぱ通信」（年 4 回）をお送りします。

●問い合わせ・申込み先

<http://kitagawakappanokai.cocolog-nifty.com/blog/>

●会費振込先

上記へ現金書留または

〔郵便振替 00120-6-104476〕

〔りそな銀行東村山支店

(普) 3605694〕



加入者名 北川かっぱの会

●かっぱ通信は市内の公民館と図書館に置いてあります。

『未来の川へ・北川復元プラン』

北川復元プランのパイロットケースとして、北山公園周辺の北川が変わりつつあります。21世紀の未来の川の姿を探る一冊。頒価 1000 円 送料 390 円

『北川流域マップー未来の川へー』

北川公園、八国山を歩くための地図。流域の生き物ミニ図鑑付き。A2 両面版 頒価 200 円

●発行 北川かっぱの会 東村山市野口町 TEL 042-395-7705 渡辺